

## 着床不全に対する PRP（多血小板血漿）療法の有効性について

徐クリニック ART センター

○徐 東舜、峰 千尋、依田 雪乃

### 【背景および目的】

PRP（多血小板血漿）療法は様々な医療現場で使用され、効果が認められている。今回我々は着床不全患者に PRP 療法を行い、その有効性について検討した。

### 【対象】

良好胚を移植したにも関わらず、3 回以上連続で子宮内に着床しなかった 13 例を対象とした。平均年齢は  $39.2 \pm 4.2$  歳、既往移植回数は  $5.2 \pm 3.2$  回であった。不妊原因は原因不明が 53.8% (7/13) で最多であった。

### 【方法】

月経 10 日から 16 日頃の卵胞期に 20ml 採血し、遠心分離をした PRP を確保して、それを 0.5 から 1ml の量を子宮腔内に注入した。1 周期での注入回数は、1 回ないしは 2 回行った。2 回の場合は 1 回目の翌々日に実施した。

### 【結果】

PRP 療法 1 周期目での着床率は 61.5% (8/13)、臨床妊娠率は 53.8% (7/13) で、流産率は 28.6% (2/7) であった。PRP1 周期目で妊娠に至らなかった、もしくは流産に終わった 3 例は 2 周期目の PRP 療法を行い、その内 1 例が妊娠したが流産に終わった。また、PRP 療法前後の子宮内膜厚は  $9.6 \pm 1.5\text{mm}$  VS  $9.6 \pm 1.7\text{mm}$  で、内膜の厚さに変化はなかった。さらに、PRP 療法 1 周期目において、1 回注入と 2 回注入の成績比較をした。臨床妊娠率は、それぞれ 75.0% (3/4) VS 44.4% (4/9)、流産率は 0% (0/3) VS 50.0% (2/4) であった。

### 【結語】

着床不全症例に対しての PRP 療法が有効である可能性が示唆された。また、1 周期当たりの PRP 注入回数は、1 回で十分である事が明らかとなった。